名字の読みの困難さはその持ち主に不利益をもたらすか

上村　建斗

我々人間は，日常生活の様々な場面で他者に対して種々の印象を形成する。その際，外見や言動といった個人の特性を反映している要素のみならず，氏名も当該他者に関する情報として機能し，印象形成の一助となっている。また，氏名が印象形成に影響を及ぼす際の要因の一つとして，処理流暢性という概念が挙げられる。処理流暢性とは，情報に対する認知処理に伴う容易さや困難さに関する主観的体験を表し，認知的な処理の容易さ/困難さが，ポジティブ/ネガティブな評価に繋がることが明らかとなっている。実際，複数の先行研究によって，発音が困難で処理流暢性が低い氏名の持ち主は，発音が容易で処理流暢性が高い氏名の持ち主よりも，相対的にネガティブな印象を抱かれる傾向にあることが示されている。しかし，これらの研究ではアルファベットやカタカナで表記された氏名が刺激として用いられている。そのため，漢字で表記されることが一般的な日本人の氏名においても同様の現象が見られるかは定かでない。そこで本研究では，漢字で表記された日本人の氏名においても，処理流暢性の高低によって印象評価に差が生じるかの検討を目的とした。

検討にあたり，本研究では，日本人の氏名に用いられている漢字の読みの困難さを，日本人の氏名における処理流暢性の指標と規定した。その上で，先行研究の知見を鑑みれば，用いられている漢字の読みが困難な氏名の持ち主は，相対的にネガティブな印象評価を受けると考えられる。また，ここで想定される印象評価の差異は，漢字の読みの困難さに起因するものである。そのため，振り仮名により漢字の読みが明らかな場合には，読みの困難さによって印象評価に差異は生じないと推測できる。以上から本研究では，振り仮名が無い場合，読みが容易な名字の人は，読みが困難な名字の人よりもポジティブに評価されるという仮説 1，読みが困難な名字の人は，振り仮名がない場合よりも，振り仮名がある場合によりポジティブに評価されるという仮説 2 の，2 つの仮説を設定した。

仮説を検討するため，本研究では実験的 Web 調査を行った。漢字で表記された複数の名字を参加者に提示し，それぞれの名字の持ち主について，対人関係の観点から印象評定を行わせた。またこの際，参加者は名字に振り仮名がある群と振り仮名がない群のいずれかに割り振られた。さらに，提示した名字は予備調査において読みが容易と判断されたものと困難と判断されたものとが半数ずつとした。

調査の結果，名字を構成する漢字の読みが困難な場合に，読みが容易な場合よりも印象評定が低くなる傾向にあった。しかし，振り仮名の有無は印象評定に影響を与えていなかった。したがって，本研究の仮説 1，仮説 2 は共に支持されなかった。一方で，この結果から，振り仮名の有無にかかわらず，漢字の読みが困難な名字を見た場合には，低い処理流暢性が経験され，その結果として相対的にネガティブな印象評定に繋がることが示唆された。またこのことから，漢字の読みが困難な名字の持ち主は，読みが容易な名字の持ち主と比較して，相対的に不利益を被る可能性があることが示唆された。

本研究では，名字の読みの困難さが印象に与える影響の検討を主目的に据えたため，参加者には名字以外の情報を与えなかった。したがって、今後は名字という情報が印象形成において他の情報をどう作用し合うのかについて検討していかなければならない。また，本研究で見られた印象への効果がどれほど持続するものなのか，他の側面からの印象評定においても同様に見られるかなどについても，今後検討していく必要がある。（社会心理学）